

# 感謝の気持ちを忘れず 甲子園でプレーしてきます

藤原 一秀君

ふじわら・かずひで

一関学院高校二年

綾織町



**PROFILE** ふじわら かずひで / 身長176㍎、体重72㍎、右投げ右打ち。強肩と俊足が持ち味。好きな選手はマリナーズのイチロー。好きな言葉は「何苦礎魂(なにくそだましい)」

第80回選抜高校野球大会※1に「希望枠」※2での出場を決めた一関学院高校野球部。歓喜に沸くナインの渦の中に、藤原一秀君の姿があった。「選ばれるかもしれないという思いもあったので、出場が決まりほっとしたのが一番最初の実感です」と胸のうちを明かす。

小学三年から野球を始め、綾織スポ少・綾織中では捕手。強肩と好リードでチームをけん引し、中学二年時の新人戦県大会ではチームの優勝に大きく貢献した。「もっと高いレベルで自分を試してみたい」と、県内の強豪校の一つ、一関学院への入学を決めた。親元を離れての寮生活や厳しい練習。初めて経験することの連続にとまどい、挫折しそうになったこともあったが、仲間と支え励まし合いながら乗り越えてきた。

センターで五番。昨秋の県大会から念願のレギュラーの座をつかんだ。選抜への出場がかかった東北大会では、俊足を生かした果敢な盗塁で好機を演出。「足が速く、肩も強い。彼がいることでセンターラインの守備が安定している」と沼田尚志監督の信頼も厚い。

大会は今年二十二日に開幕する。「甲子園でたくさん活躍することで、今までお世話になった人たちに感謝の気持ちを表したい」。自分を育ててくれた人たちへの感謝の思いを胸に、球児たちの夢の舞台「甲子園」へと挑む。

※1 選抜高校野球大会  
春の甲子園、センバツとも呼ばれる。秋季地区大会の成績などを参考に出場校が選抜される。記念大会の今年は、例年から4校増の36校で争われる。

※2 希望枠  
一般選考の補欠校にもセンバツへの「希望」を残す狙いで第75回大会から導入。直近4試合の投手を含めた守備力のデータ(被塁打、与四死球、失点、失策)に従い、順位を得点化し、合計点が最も多い学校が選出される

## 特集 「みんなの舞台」

厳冬の二月。今年も恒例の「遠野物語ファンタジー」が公演された。遠野の昔話を題材につくり上げる舞台には、笑いあり、涙あり。演じるものの息遣いと、どこか懐かしさを感じさせる舞台は、セットをつくるのも、役を演じるのも、音楽をつくり演奏するのもすべて「遠野の人」。表舞台だけでは伝えることのできない「市民の舞台」の魅力を紹介する。

【写真】舞台の袖で出番を待つユキ役を演じた遠野北小5年の南部優美さん(早瀬町)と舞台スタッフの阿部健市さん(松崎町)